

現代日本における青年の死生観に関する考察

—アンケート調査からみた「自己拡散型死生観」の特徴—

岩 瀬 真寿美*・早 川 操**

はじめに

第1章 現代の青年の死生観についての先行研究

第2章 現代青年の死生観に関する調査とその結果の分析

- (1) 青年の死生観に関するアンケート調査の概要
- (2) 宇宙・自己と死生観に関する調査結果(設問②、③を中心に)
- (3) 生命観・生きる希望や意味に関する調査結果(設問④、⑤、⑥を中心に)
- (4) 自由記述にみる自己拡散型死生観と自己終結型死生観(設問⑦を中心に)
 - 1) 「生まれ変わり信仰」選択者による自由記述
 - 2) 「あの世信仰」選択者による自由記述
 - 3) 「子孫とのつながり」選択者による自由記述
 - 4) 「自己終結型死生観」選択者による自由記述

おわりに

はじめに

現代における日本の青年にとって、「死生観」というテーマは身近なものではない。これまでに身近な人の死に出会った青年や、死をテーマとする映画や書物によって死について考える機会を得た青年にとっては思い当たることもあるとしても、学校教育で取り上げるには難しいテーマであり、好んで取り上げられるテーマであるとはいえない。しかし、「死生観」について考える機会を持つことや、自らの「死生観」を築くことが現代の若者にとって必要ではないかという提案が生じてきていることも事実である¹⁾。現代の青年にとって、生だけではなく、死をも視野に入れた上での人間の生き方についての価値観を形成することにどのような意味があるのか。本調査研究は、現代の我

* 名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程学生

** 名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授

が国における青年の死生観を調査することによってその特徴について検討し、さらに今後の課題について考察することを目的とする。

第1章 現代青年の死生観についての先行研究

「青年」と「死生観」についての研究としては、デス・エデュケーション、死への不安についての調査、死に関する思索や死をめぐる経験と死への不安との関係性、死が身近になったときを想定した場合に自己欲求充足的になるという青年の傾向などについての研究がある²。これらの研究は個人に視点を合わせたものだが、なかでも小松万喜子の「日本の現代の青年の死生観とその教育課題」という研究は、日本文化の観点を重視する研究であるという点で注目に値する³。

小松によれば、現代の青年の死生観は、以前の日本人の死生観とは変わったという。かつての日本人は「自己拡散型死生観」と呼ばれる考え方を持っており、人間の生命を宇宙や自然との調和という拡がりの中で捉える傾向があったという。それに対して、現代の青年は「自己終結型死生観」と呼ぶべき考えを持っており、自己の生命を他者や宇宙に連関させて考えず、死を自己の消滅と捉えるようになってきているという⁴。小松は、現代の青年の死生観についての変化を次のように説明する。第一に断絶感・悲哀感の質的变化（死を悲しいとか怖いなどと情緒的に反応する者は多いが、「別れ」と捉える者が少なくなった）、第二に不死感の減弱、第三に靈魂の否定や宗教意識の希薄化、第四に生のはかなさや生の有限性という意識の低下である⁵。二番目に指摘されている「不死感」という語は加藤周一が『日本人の死生観』で用いていることばであり、「死んで身体が朽ち果てても、自分を自分たらしめている心は何らかの形で存続するという感覚」を意味する⁶。

これらの特徴を持つ現代の青年に対する教育課題として、小松は以下のことを提言する。第一に、生を過去—現在—未来という時間軸、自己—他者—社会—自然という空間軸の連関の中で捉える「不死感」、それをより人生観にまで高めあげた「不死観」の視点の養成、第二に、「私」が生きた痕跡が宇宙を構成するという視点の養成、第三に、死を単なる終わりとするのではなく、人間の生涯をそれを超える永遠の中に位置づける視点の養成、という3つの教育的課題である⁷。以上の三項目は相互に関連するものであり、「自己拡散型人間観」を養うものであると考えることができる。

青年期は、自己形成の重要な時期であり、自らの行動の指針としての価値観や倫理体系を身につけることによって自己の生き方の基礎を構築する時期でもある。青年の価値観や倫理体系の構築にあたって死生観は何らかの影響を与えると考えられるため、彼らの死生観の特徴について調査を行うことによってその特徴を考察してみたい。小松による研究は、さまざまな調査研究や専門家の知見をとりまとめたものであり、有益な示唆を与えてくれる。しかしながら、現代の青年における「自己終結型死生観」の拡がりについては具体的な調査研究を行っておらず、また「自己拡散型死生観」の教育がなぜ必要であるのかについての根拠は明らかにされていないため、本研究ではいくつかの調査を通じて小松の提案を再検証するとともに、新たな知見を探索してみたい。

第2章 現代青年の死生観に関する調査とその結果の分析

(1) 青年の死生観に関するアンケート調査の概要

2008年の8月と11月、ならびに12月の3回にわたって、「現代の青年の死生観に関するアンケート

調査」を質問紙法により実施した。調査を実施した対象者は、愛知県にある二つの大学における192名の学生（年齢範囲は19歳から21歳）、愛知県の看護学校における36名の学生（年齢範囲は18歳から19歳）、および愛知県の高等学校における81名の生徒（年齢範囲は16歳から17歳）である。回収したアンケート調査結果については、付属資料1として付してある。

本調査によって明らかにしようと試みた仮説的見解は、以下のようなものである。

第一に、現代青年の自己形成にとって影響を受ける文化的基盤についてである。具体的には、二つの観点に基づいて質問を実施した。第一は、現代の青年はいわゆる遊牧民族の文化的基盤の影響を受けているのか、あるいはかつての日本人のように農耕民族の文化的基盤の影響を受けているのかという観点である。第二に、現代の青年は儒教的死生観（中国・朝鮮・かつての日本）に近い考え方をしているのか、原始仏教的死生観（大乘仏教興立前のインド）に近い考え方をしているのか、大乘仏教的死生観（大乘仏教興立後のインド）に近い考え方なのか、道教的死生観（中国）に近い考え方か、神道の死生観（古来の日本）に近い考え方か、あるいは儒教・神道・仏教が混じり合った考え方に近いのか（中国からの思想を移入後の日本）という観点である。

アンケート調査では、第一の観点については②の設問で、第二の観点については③の設問で質問をしている。②の設問のa, b, cにおいて、被験者がそれぞれの項目を選択するかによってどのような文化的基盤を持っているかを判断した。

文化的基盤の一つ目は、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教に基づくものであり、ユーラシア大陸の乾燥した砂漠草原地帯で生活することによって培った遊牧民族文化を背景に持つものである。この考え方をもつ人々が捉える宇宙や観念は、以下のような特徴を持つ。それは、唯一の超越神や創造された宇宙を想定する、天の思想を持つ、宇宙の有限性を想定する、宇宙の合理性を想定する、不寛容と非妥協性を特徴とする男性原理に基づく、などの特徴から構成される。

文化的基盤の二つ目は、ヒンズー教・仏教・道教・南ユーラシア大陸の多くの古代宗教や民間信仰の中にみられるものである。この考え方には、水に恵まれた植物的な世界や、自然に対して受動的受容的な農耕民族の文化を背景に持つ。この文化的基盤に根ざした人々が捉える宇宙や観念は、以下の特徴を持つ。それは、宇宙の中の神々を想定する、所与の存在としての宇宙を想定する、大地の思想を持つ、限定されない宇宙を想定する、宇宙の非合理性を想定する、寛容と融通性を特徴とする女性原理に基づく、などの特徴から構成される。

以上の分類は、石田英一郎の分類に基づいて小松が整理したものである⁸。アンケート調査では②のa, b, cにおいて、いずれも1を選ぶ場合は一つ目の文化的基盤に基づいた世界観を、いずれも2を選ぶ場合は二つ目の文化的基盤に基づいた世界観を持つと判断できる。

アンケート調査における③の設問における選択肢は、五つの宗教の死生観のいずれに近いかを読み取ることができるものである。それぞれの宗教的死生観の選択肢とその特徴は以下の通りである。

第一に、儒教的死生観（中国・朝鮮・日本）は1、2、3、8の選択肢であり、人間は精神（魂）と肉体に分かれ、これが一致しているときは生きている状態であり、分離しているときは死んでいる状態であると捉えるものである。また、魂を呼び戻せば死んだ者は生きた状態になると考える。

そして祖先の祭祀をする（親への敬愛、子孫の存続とともに大切）ことを重視するものである。

第二に、原始仏教的死生観（大乘仏教興立前のインド）は4の選択肢であり、死後の世界を考えると意味をなさないといえる。

第三に、大乘仏教的死生観（大乘仏教興立後のインド）は5の選択肢であり、人間は生まれ変わることにより再びこの世の苦しみを繰り返すが、その連関を断ち切れれば成仏することができるという。

第四に、道教的死生観（中国）は6であり、種々の健康法により努力をすれば永遠の生命を持つ仙人になることができると捉える。

第五に、神道的死生観（日本）は7であり、死を穢れとみなす。さらに儒教・仏教・道教が混じり合った思想として8があり、人間は死んでも霊が残りそれが生き残る人間に災いをもたらすため祀る必要があると捉える。

以上の死生観の分類とそれぞれの特徴については、加地伸行、小松奈美子、梅原猛による諸文化に関する著作をもとに、小松が整理したものである⁹。

以上、アンケート調査における②と③の設問は、現代の日本における青年がいかなる文化的基盤の影響を受けているかを調査する目的で岩瀬が作成したものである。

次に、アンケート調査における④、⑤、⑥の設問について、その目的を整理しておきたい。

小松によれば、現代の青年は「不死感」を持つ傾向が少なく、「自己終結型死生観」を持つ傾向が高いということである。これに関して、本調査では実際にどれだけの青年が「自己拡散型死生観」を持ち、「自己終結型死生観」を持つのかを、データに基づいて明らかにしようと試みた。

具体的には、④の設問では加藤周一が定義した「不死感」について、小松がさらにそれを三つに分類した項目を選択肢の1、2、3として使用した。

1は「死んで身体が朽ち果てても自分を自分たらしめている心は何らかの形で存続し、それは再度世の中に生まれ変わって現れる」、2は「死んで身体が朽ち果てても自分を自分たらしめている心は何らかの形で存続し、それは仏・祖霊となって死後の世界へ生きる」、3は「死んで身体が朽ち果てても自分を自分たらしめている心は何らかの形で存続し、それは生物学的な鎖・きずなどとして、自分の子孫のうちに生き続けてゆく」である。

小松によれば、これらを選択する青年は少なく、逆に4の「死んで身体が朽ち果てれば自分を自分たらしめている心はどんな形としても残らない」を選択する青年が多いと述べている。

さらにアンケート調査における⑤の設問は、④の設問と深く関わっている。④の設問において1、2、3を選択する者は⑤の設問において1を選択する傾向が強く、また④の設問において4を選択する者は⑤の設問において2を選択する傾向性が強い。すなわち④の設問と⑤の設問には高い相関があると予想される。

小松は「自己拡散型死生観」の教育が必要であると提唱している。なぜそれが必要であるのかを根拠付けるために、アンケート調査においては⑥の設問として人生観を問う質問項目を作成した。具体的には、「生きる希望」、「安心」、および「自我概念」に関する項目である。

a 「生きる意味について自分なりの回答をもっている」、b 「生きる希望について肯定的なもの

をもっている」、およびc「生活のなかで特に訳もなくあせりを覚えることがある」は、「生きる希望」に関して問うものである。

d「生活のなかで特に訳もなく不安にかられることがある」、e「自分に関わる物事についておそらく上手くいくだろうと考える」、f「運命にまかせるよりも自身でどうにかしなければならないと考える」は「安心」に関して問う項目である。

g「自分の性格のなかで嫌いな部分を直そうとせず、そのまま放っておく」、h「世の中には絶対に自分とは上手くやっていけない人がいると考える」、i「過去と現在とを比べるときに、現在の自分の方を肯定している」は「自我概念」に関して問うものである。

これら⑥におけるそれぞれの設問と死生観にはどのような関連がみられるのであろうか。小松が提唱しているように、人間の生命を宇宙や自然との調和という拡がりの中で捉える「自己拡散型死生観」が教育課題として目指すべき方向であるという根拠は、⑥で問うた人生観と死生観との間に何らかの関連性があることによって明確になるであろう。したがって、④と⑤の設問で問うている死生観と、⑥の設問で問う人生観の間になんらかの相関性があることを検討する必要がある。

おそらく、「自己拡散型死生観」の形成を教育課題として小松が重視する背景には、それによって死んで無になることに対する悲しみを和らげるだけではなく、個人の生き方や価値観に影響を与えるからであるという思いがあるのではなかろうか。そうであるならば、「不死感」や生きる意味について学校教育や大学教育においてどのように取り扱っていくことが現代の青年にとって受け入れられやすいものとなるのであろうか。この問題に関しては、②と③の設問で明らかになった、青年が影響を受けている文化的基盤の調査結果に基づいて考察してみたい。

(2) 宇宙・自己と死生観に関する調査結果（設問②、③を中心に）

アンケート調査における②の設問の回答について、大まかな年齢別の結果を把握するため、大学生、看護学校生、高校生の三分類によってその特徴を見ていく。

まず注目されるのは、②cの設問の回答として大学生、看護学校生、高校生ともに3（「宇宙には唯一の神が存在する」でも、「宇宙には複数の神々がいる」でもない）が1、2を大きく上回っているという点である。1と2を合わせても3の人数を超えないことから考えても、現代の青年の多くは、宇宙に神がいるとは考えていないという傾向をみて取ることができる。

②aと②bについてであるが、②aについては、2「私は寛容的であり融通性をもつ方だ」を選択する人が、1「私は寛容的ではなく妥協的ではない方だ」を選ぶ人の二倍以上いた。この特徴は大学生、看護学校生、高校生の全てのレベルにおいてあてはまる。大学生、看護学校生、高校生の間で差異がみられるのは②cの回答であり、年齢が上がるほど1「宇宙は合理性をもつと思う」を選択する者が多いのに対して、年齢が下るほど2「宇宙は非合理的なものだと思う」と回答する人が多く、年齢によって影響される文化的基盤が異なるということが予想できる。すなわち、高校生よりも大学生の方が、自らが生きている状況を合理的なものとなししていることが理解できる。ちなみに、②aと②bの二つの設問について、いずれも1を選ぶ、あるいはいずれも2を選ぶという人が多いほど相関関係が高くなるが、その相関は0.047318であり、高くはないが正の相関であった。

アンケート調査における③の設問は、複数回答を可とした。大学生、看護学校生、高校生の回答結果を比較して、まず目立つのは、いずれの年齢にあっても1、3、8を選択する者が多いことである。1の「人間は精神(魂)と肉体に分かれ、これが一致しているときは生きている状態であり、分離しているときは死んでいる状態である」は儒教的死生観であり、3の「祖先を祀る(まつ)べきだ」も儒教的死生観である。8の「死んで残った霊魂が生き残る人間に災いをもたらさないよう、霊魂を祀るべきだ」は儒教・仏教・道教が混じり合った死生観であり、中国からの思想が移入された後、その影響を受けながら日本で展開されてきた考え方である。

さらに注目すべき点として、高校生のみにみられる特徴として、2の「魂を呼び戻せば死んだ者は生きている状態になる」という儒教的死生観を選択する者がある程度いることである。また、看護学校生は、他と比べて4の「死後の世界を考えることは意味をなさない」という初期仏教の死生観を持つ者が少ないことである。一部の高校生が2を選択したということについては、②bの設問において「宇宙は非合理的なものだと思う」と考える高校生が多かったことから理解できる。彼らは、科学的見地から証明されがたい考えをも信じる傾向を持っていることに注目したい。

看護学校生が4を選択する傾向が低いことについては、看護について学んでいる学生にとって、死について科学的に考える機会が多いことを示していると言えるであろう。

③の設問において、大学生、看護学校生、高校生の全てにわたって選択される数が少なかったのは、5の「人間は生まれ変わるにより再びこの世の苦しみを繰り返すが、その連関を断ち切れれば成仏することができる」という大乘仏教的死生観、6の「種々の健康法により努力をして永遠の生命をもつ仙人になりたい」という道教的死生観、および7の「死はけがれである」という神道的死生観であった。5や6の項目が少なかった理由として、日本人にとって日常において接する機会が少ない考え方であるということが考えられるだろう。7の項目については、神道の思想であるということもあり、かつての日本人にとっては馴染みやすいものであったかもしれないが、現代の青年にとっては馴染みがやすい考え方であることが分かる。

(3) 生命観・生きる希望や意味に関する調査結果(設問④、⑤、⑥を中心に)

次に、アンケート調査における④と⑤の設問の回答を分析してみたい。

④の設問において1、2、3のいずれかを選ぶ人は⑤の設問において1を選び、④の設問において4を選ぶ人は⑤の設問において2を選ぶ可能性が大きいと仮定して分析を行った。結果、その相関は0.293476であり、正の相関がみられた。

先に⑤の設問の結果を見ると、大学生、看護学校生、高校生の全てにわたって、1の「人間の生命を宇宙や自然との調和という拡がりのなかでとらえる」を選択する者が圧倒的に多い。大学生、看護学校生、高校生の間の相違に着目すると、2の「自己の生命を他者や宇宙に連関させて考えず、死を自己の消滅ととらえる」を選択する割合は、大学生が最も大きい。

そこで④の設問の回答に視点を移すと、やはり4の「死んで身体が朽ち果てれば自分を自分たらしめている心はどんな形としても残らない」を選択する者の割合は、大学生、看護学校生、高校生のうち、大学生が最も大きい。といっても、大学生においては、看護学校生と同様に、他の選択肢よりも3の「死んで身体が朽ち果てても自分を自分たらしめている心は何らかの形で存続し、それ

は生物学的な鎖・きずなどとして、自分の子孫のうちに生き続けてゆく」を選択する者が最も多い。

それに対して、高校生は、④の設問において、1の「死んで身体が朽ち果てても自分を自分たらしめている心は何らかの形で存続し、それは再度世の中に生まれ変わって現れる」を選択する者が他の選択肢に比べて圧倒的に多い。ここにみられる大学生および看護学校生の特徴と、高校生の特徴との相違は、まさに②bの設問においてみられたように、年齢が上がるにつれて宇宙を合理的なものとする傾向が強くなっていったことと関連を持つことが予想できる。

④と⑤の設問への回答を分析することから分かることは、大学生、看護学校生、高校生の全てにわたって、「自己終結型死生観」よりも「自己拡散型死生観」を持つ者が多いという事実である。大学生、看護学校生、高校生を比較するならば、「自己終結型死生観」を持つ者の割合が最も高いのは大学生であること、また生物学的な観点から自己と子孫とのつながりを意識しているのも大学生であることが理解できる。さらに、生まれ変わり信仰を持つ者は高校生に多く、その選択肢を選んだ者はその他の選択肢を選ぶ者の数を圧倒的に凌いでいたということである。

続いて、④と⑤の設問への回答と⑥の設問への回答との関連性を分析する。

ここでは仮説として、「自己拡散型死生観」を持つ者の方が「生きる希望」、「安心」、および「自我概念」に肯定的なものを持っていると考えた。具体的には、「自己拡散型死生観」を持つ者の回答として、aの「生きる意味について自分なりの回答をもっている」では「当てはまる」が多く、bの「生きる希望について肯定的なものをもっている」でも同様に「当てはまる」が多くなるであろうと仮定した。cの「生活のなかで特に訳もなくあせりを覚えることがある」については、「当てはまらない」が多く、dの「生活のなかで特に訳もなく不安にかられることがある」についても「当てはまらない」が多いと仮定した。eの「自分に関わる物事についておそらく上手くいこうと考える」では「当てはまる」、fの「運命にまかせるよりも自身でどうにかしなければならないと考える」は「当てはまらない」、gの「自分の性格のなかで嫌いな部分を直そうとせず、そのまま放っておく」は「当てはまらない」、hの「世の中には絶対に自分とは上手くやっつていけない人がいると考える」は「当てはまらない」、iの「過去と現在とを比べるとときに、現在の自分の方を肯定している」は「当てはまる」が多いと仮定した。そのような相関を④と⑥の設問の間で分析し、さらに⑤と⑥の設問の間で分析した。これらの相関については付属資料3として掲載した。

相対的に正の相関が高いのは④と⑥a、④と⑥b、⑤と⑥b、④と⑥e、⑤と⑥gである。すなわち、aの「生きる意味について自分なりの回答をもっている」、bの「生きる希望について肯定的なものをもっている」の設問で「当てはまる」を選択した者は、④で「自己拡散型死生観」を持つ者であるケースが多い。

bの「生きる希望について肯定的なものをもっている」で「当てはまる」を選択した者は⑤においても「自己拡散型死生観」を持つ者であることが多い。

また、eの「自分に関わる物事についておそらく上手くいこうと考える」と考える者は、④で「自己拡散型死生観」を持つ者であることが多い。

さらに、gで「自分の性格のなかで嫌いな部分を直そうし、そのまま放っておかない」者は⑤で「自己拡散型死生観」を持つ者であることが多い。このように、「自己拡散型死生観」を持つ者の方

が、「生きる意味について自分なりの回答をもって」おり、「生きる希望について肯定的なものをもって」おり、「自分に関わる物事についておそらく上手くいくだろうと考え」ており、「自分の性格のなかで嫌いな部分を直そうし、そのまま放っておかない」という傾向を持つことを読み取ることができる。

⑤で「自己拡散型死生観」を持つ者が、⑥では「生活のなかで特に訳もなくあせりを覚えることがあ」り、「生活のなかで特に訳もなく不安にかられることがあ」り、「運命にまかせるよりも自身でどうにかしなければならぬと考え」ており、hの「世の中には絶対に自分とは上手くやっけない人がいると考え」ている場合もあることを、(相関は低い)が読み取ることができる。したがって、「自己拡散型死生観」を持つ者の方が、「自己終結型死生観」を持つ者よりも明確な人生観や価値観を持っていると即座に判断することはできない。しかしながら、これまでの分析を総合的に考えるならば、「自己拡散型死生観」を持つ者の方が、「生きる希望」を持つ傾向が強くみられ、あせりや不安を抱えながらも上手くいこうという楽観的な期待を持ち、自己を変革していこうとしている積極的な人生観を読み取ることができる。

アンケート調査における⑥の設問への回答から、大学生、看護学校生、高校生のそれぞれの人生観の特徴を概観してみよう。

aの「生きる意味への自分なりの回答」については、大学生、看護学校生、高校生のいずれにおいても、「やや持っている」と回答している者が多くみられる。高校生が「持たない」と最も多く回答していることについては、将来がまだ予測できないことの不安の現れであるとみなすことができるであろう。

bの「肯定的な生きる希望」については、大学生、看護学校生、高校生のいずれも、「持つ」、あるいは「やや持っている」と回答する者がほとんどである。高校生ではaの「生きる意味への自分なりの回答」を持たないと答えた者でも、bの「肯定的な生きる希望」についてはある程度持っているとしており、将来に対して明るくみていることが理解できる。「肯定的な生きる希望」については、看護学校生が最も多く「持っている」と回答していることにも着目したい。

cの「生活のなかのあせり」については、大学生、看護学校生、高校生のいずれも、やや持つと回答する者が多い。持たないと回答する割合が看護学校生で最も大きいことは、彼らの将来の職業がほぼ決定していることへの安心の現れであるといえるかもしれない。

dの「生活のなか不安」については、大学生、看護学校生、高校生のいずれも「持つ」、あるいは「やや持っている」と回答する者が多い。「持つ」と回答する者の割合が大きいのは、高校生である。これも将来の進路が決定していないことの現れであるかもしれない。

eの「おそらく上手くいこう」に関する設問では、「やや当てはまる」という回答と「どちらとも言えない」という回答に集中している。大学生と高校生の方が、看護学校生よりも「やや当てはまる」という回答した者が多く、彼らが楽観的な考えを持っていることが理解できる。

fの「運命と自分の努力」に関する設問では、大学生、看護学校生、高校生のいずれも、自分で努力しなければならないと考えている者が多い。

gの「性格を直そうとするか」についての設問では、直そうとする者の方が全般的に多い。看護学校生において、その傾向が最も強い。

hの「世の中には上手くやっけていけない人はいるか」という設問では、全般的に「そうである」と回答する者が多く、なかでも高校生にその傾向が最も強くみられる。

iの「現在の自分を肯定するか」についての設問では、「やや当てはまる」が全般的に多く、大学生、看護学校生、高校生の間にあまり差はみられない。

(4) 自由記述にみる自己拡散型死生観と自己終結型死生観（設問⑦を中心に）

アンケート調査における⑦「あなたが行動をするときに指針としている価値観はどのようなものですか？」についての自由記述と、④の設問との関係について検討してみたい。

1) 「生まれ変わり信仰」選択者による自由記述

④の設問で1の「生まれ変わり信仰」を選択した者の行動指針は、以下のようであった。

第一に、大学生の回答である。

「自分の行動によって誰かに迷惑をかけるか。間違っていないかについてよく考える。考えすぎて身動きができない時もある。それはすべきか。それともしなくてもよいのか。しなくてもよいならしない。常に他者の視線と自分がどうなるのかを考えている。」

「自分がしたいかしたくないか考える（かなり時間がかかる）→損得計算（たまに考えず行動してしまう）→他人との調和（まわりについて気にする）→やって（しなくて）よかった、あるいは後悔（最近は後悔が多いです）」

「なるようになる。」

「勘。」

「インスピレーションに基本的に従うが、周りのことも多少考慮する。」

「常に自分を客観的に見て、自己の利益のためだけに動いていないか。」

「前を向いて行動する。」

「なるべく自分以外の他の人間に迷惑をかけないように心がけている。≦自分のしたいこと。得になることを優先するように心がけている。」

「いいことをしたらそのぶんいいことはかえってきて、悪いことも同じようにかえってくる。」

「あまり何も考えていない。」

「その時々によって違うと思う。」

「行動する時は基本的に周りの空気をうかがいつつ動く。」

「自分で良いと感じたらする。やめた方が良いと感じたらしない。」

「限られた人生なのだから、色々なことを楽しもうという姿勢でいつも生活したいと思っている。」

「周りに気をつかわせないようにしている。」

「常識的なこと。あたりまえのルール、マナー。他人に迷惑をかけること。自分がいいと思ったこと。」

「自分のしたいことを実現するために行動するが、それが他人の迷惑になるようなことであれば、それは行動に移さないようにする。」

「・利益、メリットがあるか。・時間をうまく（効率良く）使えているか。・楽しいかどうか。・興味深い、面白い要素があるか。・その行動が今後の自分に生きてくるか。」

「・本当に自分がやりたいと思ったこと。・楽しいと思えること。」

「日本人ということ」

「人の価値観に興味をもち、かつ自分の価値観を大切に。」

「今やらなければ後悔すると思ったことをする。」

「ポジティブ」

第二に看護学校生の回答である。

「自分の感情や自分の持っている常識。」

「なるようになる？」

「そこまで深くは考えず行動していることがある。」

「人の意見を大事にすること。」

「自分を信じて行動する。適当に生きる。」

第三に高校生の回答である。

「直感。」

「自己の意志」

「損得」

「まず相手の気持ちを考える」

「あまり迷惑をかけないようにする。先のことを考える。」

「人とちがうことをする。でも、人にあわせる。」

「結果的に得られるものがあるかどうか。何のために行動をするか。」

「周りを見て行動してしまう」

「ノリでしたいようにすることが多いが、周りの空気をうかがうこともある。」

「少し考えて、あとは自分の直感のまま」

「協調性」

「自分の価値観だけにとらわれないようにさまざまな目線から自分の行動を客観視している。」

「他人ではなく、自分自身の考えからの価値観。」

「・自分の目的（楽しいこと・頑張ること）を追求する必要があるか。・自分がその行動をして周りの人が喜んでくれるかどうか。・実際、あまり考えて行動していない。」

「何らかの形で自分の為になるかならないか。自分が本当にやりたいことは諦めないようにする。」

「自分の考えの軸をしっかりとさせる。自分というものを持つ。」

「ほとんど直観で『こうしよう』と決めて、でも行動する前となると一旦立ち止まって考える。」

(価値観かな?)」

以上、生まれ変わり信仰を持つ者の場合、大学生、看護学校生、高校生全てにおいて、他者の視線を気にして行動していることが理解できる。

2) 「あの世信仰」 選択者による自由記述

次に、④の設問で2の「あの世信仰」を選択する者の行動の指針を、以下に記載する。

第一に、大学生の回答である。

「なんとかなる。なるようになるさ。」

「信頼できる人とできない人では心のキョリを変えている気がする。精神的なつながりが大切だと思う。」

「思いつき。気分。その時の自分の考えと照らしあわせて、客観的、主観的に考えた結果。」

「嫌なことを嫌と思わない。何か楽しさを見出すようにしている。→今の自分で満足している気がする。」

「正義は絶対。」

「自分にとって良いことであるかどうか。」

「特になし。」

「将来後悔しないか。」

「行動に選択肢が生じた時、費用（リスク）と便益との差が大きい方を選ぶ。」

「他人への思いやり。」

「行動した後のことも考えて行動する。」

「その行動の過程、結果において、いかに自分が他より優位に立てるか、得をするか。」

「私の選んだ行動は私の運命そのもの。」

「自分が正しいと思ったことについて最後までつらぬく。しかし、途中で明らかに自分が間違っていることに気づいたときには、他者の意見を深くとりいれ客観的な心をもって行動する。」

「金銭的契約や、人間関係上の自分に課せられたミッションを理解し、少なくともそれ以上の成果を出すこと。」

「常に前向きに、向上心を持って取り組むこと。」

「時代（メディアの言うこと、流行）に流されない。」

「まずは行動してみる！やってみないことには何も分からないので…。」

「わからない」

「なんとかなる」

「失敗する可能性の有無」

「他人を思いやること。」

「やろうかどうしようか迷っている事柄が目の前にあったら、『これをやる運命にあるから今私はこれに会ったんだ』と考えて実行する。」

第二に看護学校生の回答である。

「新しいものを一つは知ろうとする」

第三に高校生の回答である。

「経験」

「行動するなら結果を残す。」

「次にどうなるか、相手はどうおもうか予測する」

「できるだけ自分の力でやりぬく。」

「周りに合わせてしまうことが多い。先のことを考えて行動する。でも良い方にしか考えない。」

以上、あの世信仰を持つ者の場合でも、他者のことを考慮するが、自分の考えを貫こうとする傾向が強いことを読み取ることができる。

3) 「子孫とのつながり」 選択者による自由記述

次に、④の設問で3の生物学的遺伝による子孫とのつながりを選択した者の行動指針を記載してみよう。

第一に、大学生の回答である。

「その行動をして、何があるか。(もし、自分のために意味を成さない行動でも他の誰かの人のためのものであれば行動する)」

「その行動によって、どれだけのプラス面やマイナス面があるか。いかに損失を少なくするかなど。全体で考えるので、たとえ自分にとって不利益であっても全体が好転するならば良いと思う。」

「自分の行動によって、自分または他者に利益が発生するかどうか重要。利益の発生しない行動には意味がなく、そのような無意味な行動は、人生の中でできるだけ少ないほうがよいと考える。」

「本当にしたいことからそれないように、ふり返らないこと。」

「わからない。」

「情けは人のためならず。努力はうそをつかない。正直者が馬鹿を見る世の中でも正直に生きる。正しいものは強いと信じる。」

「あまり考えてません。」

「行動はおこさなければ何も起こらない。おこすことによって自分の目的であったり、また別の何かが成されると考える。そしてその経験は成功であれ失敗であれ、いつかどこかで生かされる。」

「まず第一に人に迷惑をかける行動はとらない。自分の行動を決めるとき、これが大きく影響してくる。」

「周囲のみな有りきの自分ということを常に念頭におく。」

「自分の行動が他者に迷惑がかかってないかはっきりとではないが少し意識している。その上で

やりたい事をやる。」

「何かしようとしたときに、成功する可能性がどれくらい高いか。」

「どうにもならないこと以外は、自分が納得していることがなければ基本的に動かない。」

「自分の考え。それが他の何かから影響を受けたものであっても、自分の判断でそうすると決めたなら、自分の考えになっていると考える。」

「他人の行動よりおとる所があっても、それが自分らしさであり、肯定的に思うこと。」

「楽しいか楽しくないか。」

「1、自分のためになるか。2、人のためになるか。」

「・やるべきことをやる。・やりたいことをやる。」

「良心」

「bestよりbetterな選択をすること。世の中全ての人間が自分を理解する訳はなく、その逆もまたしかりである。つまり知己は常に少数であることをわきまえておくこと。」

「客観的に考えて筋の通った行動かどうか。」

「楽しいこと」

「変化」

「人の価値観との調和をとる。」

「直感で動くのではなく、論理的に考えて動く。」

「自分の気持ちに素直であるか。」

「他人に迷惑をかけないか。」

「自分の直感を信じて、正しいと思ったことを、気が済むまで貫く。」

「やらないで後悔するよりやってから後悔するほうがいい。でも何でもやろうとすると死んじゃう（ストレスでつぶれるということですよ）んだよね」

「受容。価値判断はその次。」

第二に看護学校生の回答である。

「自分がやりたいかやりたくないか」

「人に迷惑をかけることか。」

「自分をごまかさない」

「自分の気持ち」

「自分が思うままに行動する。」

「何とかなるという、変な自信。」

第三に高校生の回答である。

「過去の経験と相手の態度、それか直感。」

「利益—苦勞の差分の大きさによる」

「いつかは自分の身にもどってくる」

「自分の利益になるかどうか。友人のためになるかどうか。」

「特にない。自分の心にまかせて行動する。」

「勝てない勝負はしない」

「計画的に行動する。あきらめる前にやってみる。」

「利益。」

「みんなを楽しくさせるもの」

「時間を守って行動すること。」

「たくさん意見・情報を集めて、その中で自分で方法を選んで、すべての事が上手くいくように行動する。」

「後悔しないように行動しようと思う。」

以上、生物学的な子孫とのつながりを意識する者は、行動から生じる結果について注意していることが理解できる。結果については、自己のためであり、さらに他者のためとなることが望ましいと考える者が多いようである。

4) 「自己終結型死生観」選択者による自由記述

最後に、④の設問で4の「自己終結型死生観」を持つ者の行動の指針を述べてみたい。

第一に、大学生の回答である。

「自分と関係が深い人の価値観でも結局決めるのは自分だから、これまで生きてきた経験など。」

「自分が行動するその時に思ったことは行動に移す。」

「他者を大切にす。主張する所は主張する。がんばる。」

「周りの人になるべく影響を与えないようにする。」

「直感を大切にす。」

「今出来ることは次に回さない。」

「いきづまったら自殺すればいい、と考えると気が楽になる。」

「今を楽しく生きる。」

「『せっかくだから～しよう。』と考え、行動する。」

「・メリットがあるか。・デメリットがあっても、それ以上に楽しめるか。・人との約束事が第一優先。」

「正義」

「権利を主張する前に果たすべき義務がある。不幸に酔うのは嫌だ。」

「fortune is always on the side of the industrious.」

「結果良ければすべてよし。その逆も然り。」

「なせばなる。とりあえずやってみる。少なくとも神様は信じてないです。」

「その時の気分」

「その時その時が楽しいように、明日死んでも後悔しないように過ごす。悩んで生きててもあまり悩まずに生きてても結果はそんなにかわらないだろうし、どんな人生になってもそれなりに楽しいこともつらいこともあるはずだから、楽しいと思えるように過ごすことを重視する。」

「他人の領域・運命を必要以上に侵さないこと。」
「自分がそれでいいと思うかどうか。」
「その行動が、これからの自分にメリットがあるかというもの。」
「・自分のためであること。・人を傷つけないこと。」
「価値観自体多様であるということ。・おもしろいかどうか。・謙虚であること。」

看護学校生の回答はなかった。

次に高校生の回答である。

「好きなことを好きなきに。」
「悪事を働くとそのことは自分に返ってくる」
「あとさきをしっかりと考えて慎重に行動している。」
「どのようなものだろう…。なんか、感覚でプラスになるか、ならないかとか、あと他人から見たらどうかとか。多分、自分がよくわかっていないので、他人の価値観に影響されていると思う。」
「人道的か否か」
「直観、直感。自分のしたいこと望むことができるかぎりうまく運ばれるように考えたり言ってみたりやってみたりするだけ。私の行動の指針は私。」

以上、「自己終結型死生観」を持つ者は、これまでの三つのタイプよりも自己の意志を尊重している。他者に影響を与えないようにするといった考え方や、今を重視するという考え方は、これまでの三つのタイプにはあまり表明されなかった価値観である。第二の、生物学的な子孫とのつながりを意識しているグループでは、他者にとって良いかという良い意味で他者を巻き込んだ考えがなされていたが、逆に「自己終結型死生観」を持つグループでは他者を巻き込まないように気をつけようとしていることが理解できる。

おわりに

「自己拡散型死生観」の教育の必要性は以上のようなアンケート調査結果の分析に基づいてある程度明らかにすることができた。

「自己拡散型死生観」を持つ者の方が「自己終結型死生観」を持つ者と比べると、「生きる意味について自分なりの回答をもって」おり、「生きる希望について肯定的なものをもって」おり、「自分に関わる物事についておそらく上手くいくだろうと考え」ており、「自分の性格のなかで嫌いな部分を直そうし、そのまま放っておかない」という傾向を持っていることが、設問④、⑤、⑥の回答を分析することによって明らかとなった。

さらに「自己拡散型死生観」を持つ者は、行動指針や価値観として、「自己終結型死生観」を持つ者よりも他者のためになることを望むという考え方を持っており、利他性や社会性が高いことが設問⑦の回答の分析から明らかとなった。そうはいつても、「自己拡散型死生観」はひとまとめにす

ることができるものではなく、本調査では設問④の1のような「生まれ変わり信仰」、2のような「あの世信仰」、3のような「生物学的つながり」などのカテゴリーに分類した。

「自己拡散型死生観」は、「自己終結型死生観」を持つ者や、利他的であり個人の殻を持つ個人に対してどのような示唆を与えてくれるのだろうか。高校生に対する死生観の教育と大学生に対するそれとでは、年齢や発達段階が微妙に異なるためそれぞれの特徴に応じた教育や学習方法を工夫する必要があるだろう。本調査では、高校生の段階では生まれ変わりを信じている者がかなりの割合でいるが、大学生になるにつれて宇宙を合理的なものと考え、生まれ変わりを信じることなく生物学的な子孫とのつながりとして人間の生き方を捉えていく傾向がみられることが明らかになった。

「自己拡散型死生観」を育成することが望ましいと考えるならば、高校生と大学生それぞれの発達段階に応じた教え方を工夫する必要があるであろう。

高校生から大学生にいたるまで、宇宙の中に神がいると考えている者が少ないこと、儒教的思想である先祖崇拝の考えを持つ者が多いこと、とりわけ高校生においては靈魂が分離した状態を死であると捉える者が多いという今回の調査結果は、彼らの死生観の教育にあたって参考になると考えられる。

高校生までの段階では、生まれ変わりの思想やあの世についての思想を受け入れやすい傾向がみられる。そのため、先祖が守ってくれるという考え方によって安心を得て感謝の気持ちを抱くことが可能になるであろう。また、生きている家族や今は亡き先祖も大切にするという考え方を持つことによって、自分の周りにいる高齢者を含めた他者を尊重する態度を養うことも可能になる。道徳的な価値として教育されるべき自己の力を超えたものへの畏敬の念は、このような考え方や生き方から生まれてくるであろう。

大学生の段階になれば、生まれ変わり信仰やあの世信仰を持つ者は減少する傾向がみられる。それとともに、彼らは生物学的観点から子孫とのつながりを意識するようになるため、未来の子どもたちのために社会に貢献しようという考えを深める可能性を持つといえよう。高校生にとって大学教育を経験する意義があるとすれば、自らの将来を意識する時期に大学教育を経験することによって、他者の中で生きてきた生かされているという意識を高める可能性があることである。現代の青年にとって、大学教育は自らの行動指針や価値観を形成していく上で意味ある経験を提供してくれる可能性を持つといえるであろう。大学におけるそのような教育内容や方法の開発に関する考察については、今後の課題としたい。

【註】

- 1 広井良典「死生観と時間」(上・下)、中日新聞(2008年12月14日、12月21日の連載)。戦後の日本社会では、人々はひたすら上昇という坂道を登っていったが、このような「直線としての人生イメージ」を「円環としての人生イメージ」へと変えていかねばならない時期となっているのではないだろうか」と広井は提言する。「自分の生まれ育った場所を死ぬ前にもう一度見とどけたい」という願いは誰もが根底に持つ普遍的願いであり、それは「直線としての人生イメージ」が持つ「カレンダー的な時間」とは別の層面にあるのではないか。そのような「円環としての時間」は「生と死とがふれあう場所」である。例えば映画において「死者との再会」がテーマとなり、

人々がそれを観るのは、生と死の連続性について人々が根底で気づいているからではないかと指摘する。

- 2 アルフォンス・デーケン『生と死の教育』岩波書店、2001年。石川英夫「青年の死生観に関する研究（Ⅰ）」『東京経済大学人文自然科学論叢』第79号、1988年、1-53頁。石川英夫「青年の死生観に関する研究（Ⅱ）」『東京経済大学人文自然科学論叢』第80号、1988年、239-289頁。上岡澄子「わが国におけるデス・エデュケーションの動向と課題 一人間時形成論的考察一」『佛教大学大学院紀要』第25号、1997年、93-108頁。エリザベス・キューブラー・ロス著、鈴木晶訳『死とその過程について』中公文庫、2001年。河合隼雄『生きることと死ぬこと』岩波書店、1994年。島山平三「大学生のライフ・スタイルと価値志向」『大阪樟蔭女子大学人間科学研究紀要』第1号、2002年、53-67頁。丹下智香子「死生観の展開」『名古屋大学教育学部紀要（教育心理学）』1995年、149-156頁。丹下智香子「青年前期・中期における死に対する態度の変化」『発達心理学研究』第15巻、第1号、2004年、65-76頁。丸山久美子「生と死のエトス—現代青年の社会不安と死生観」『聖学院人文論叢』第1巻、1988年、163-179頁。
- 3 小松万喜子「日本の現代の青年の死生観とその教育課題」『佛教大学大学院紀要』第28号、1999年、99-114頁。
- 4 同書、110頁。
- 5 同書、109-110頁。
- 6 加藤周一、M・ライシュ、R.J.リフトン『日本人の死生観』岩波書店、1977年。
- 7 小松、前掲論文、110-112頁。第一に挙げる「不死観」は、加藤の「不死感」をもととして、小松がより自己の哲学として深めたものという意味合いを込めて使う用語である。
- 8 石田英一郎『東西抄 日本・西洋・人間』筑摩書房、1967年。
- 9 加地伸行『儒教とは何か』中公新書、1990年。小松奈美子『新版生命倫理の扉 一生と死を考える一』北樹出版、1998年。梅原猛「怨霊と鎮魂の思想」田村芳朗、源了圓編『日本における生と死の思想』有斐閣、1977年。さらに、儒教的死生観や道教的死生観に関するものとして、中国古代人の死生観を論ずるものに、貝塚茂樹『古代中国の精神』筑摩書房、1967年がある。また、金谷治編『中国における人間性の探究』創文社版、1983年。内藤虎次郎『内藤湖南全集 第十巻』筑摩書房、1969年。森三樹三郎『古代より漢代に至る性命観展開』創文社、1971年。他方、仏教的死生観について論じるものとして、植山春平、梶山雄一編『佛教の思想 その原形をさぐる』中公新書、1974年。鎌田茂雄『現代人の仏教』講談社、1998年。山口益『仏教思想入門』理想社、1968年。神道の死生観について論じるものに、安蘇谷正彦『神道の死生観 一神道思想と「死」の問題』ぺりかん社、1996年、がある。

(付属資料1) 実施したアンケート調査

現代青年の死生観に関するアンケート調査

★あてはまる番号に○をつけるか、回答欄に回答を記入してください。

- ① あなたの年齢と性別を教えてください。

年齢 _____ 歳
性別 1 男 2 女

- ② 次の a から c のそれぞれについて、あなたの考えにより近い項目の番号に○をつけてください。

- a 1 私は寛容的ではなく妥協的ではない方だ b 1 宇宙は合理性をもつと思う
2 私は寛容的であり融通性をもつ方だ 2 宇宙は非合理的なものだと思う
3 1でも2でもない 3 1でも2でもない

- c 1 宇宙には唯一の神が存在する
2 宇宙の中には複数の神々がいる
3 1でも2でもない

- ③ 次の項目の番号のうち、あなたの考えに当てはまるものに○をつけてください。(複数回答可)

- 1 人間は精神(魂)と肉体に分かれ、これが一致しているときは生きている状態であり、分離しているときは死んでいる状態である
2 魂を呼び戻せば死んだ者は生きている状態になる
3 祖先を祀る(まつる)べきだ
4 死後の世界を考えることは意味をなさない
5 人間は生まれ変わるにより再びこの世の苦しみを繰り返すが、その連関を断ち切れれば成仏することができる
6 種々の健康法により努力をして永遠の生命をもつ仙人になりたい
7 死はけがれである
8 死んで残った霊魂が生き残る人間に災いをもたらさないよう、霊魂を祀るべきだ
9 1から8の項目のうち、いずれにも当てはまらない
10 その他 ()

- ④ 次の項目の番号のうち、あなたの考えに最も当てはまるものに一つだけ○をつけてください。

- 1 死んで身体が朽ち果てても自分を自分たらしめている心は何らかの形で存続し、それは再度世の中に生まれ変わって現れる
2 死んで身体が朽ち果てても自分を自分たらしめている心は何らかの形で存続し、それは仏・祖霊となって死後の世界へ生きる
3 死んで身体が朽ち果てても自分を自分たらしめている心は何らかの形で存続し、それは生物学的な鎖・きずなどとして、自分の子孫のうちに生き続けてゆく
4 死んで身体が朽ち果てれば自分を自分たらしめている心はどんな形としても残らない
5 1から4の項目のうち、いずれにも当てはまらない

- ⑤ 次の2つの項目のうち、あなたの考えにより近いものに一つだけ○をつけてください。

- 1 人間の生命を宇宙や自然との調和という拡がりのなかでとらえる
2 自己の生命を他者や宇宙に関連させて考えず、死を自己の消滅ととらえる
3 1と2のいずれにも当てはまらない

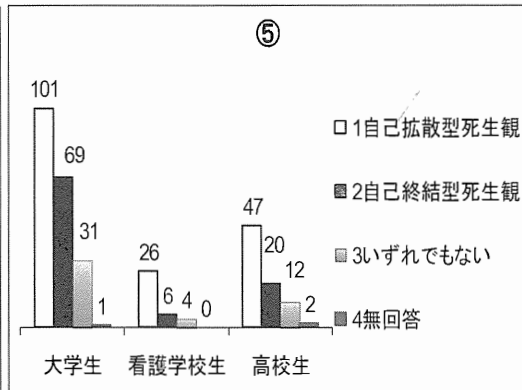
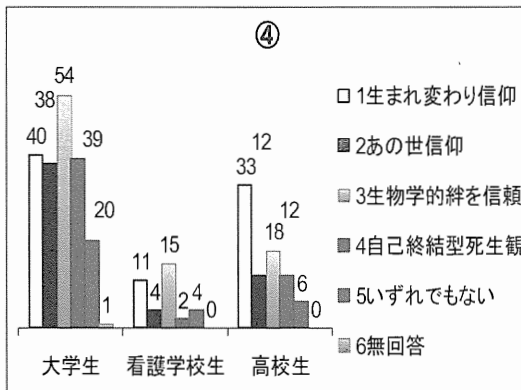
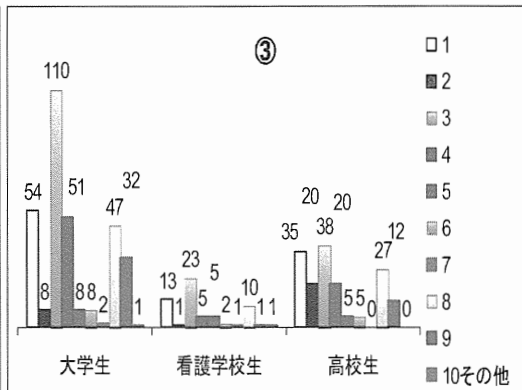
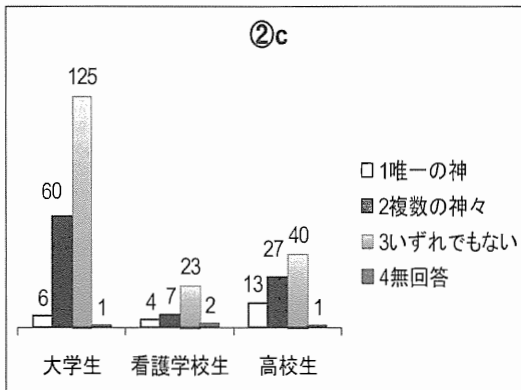
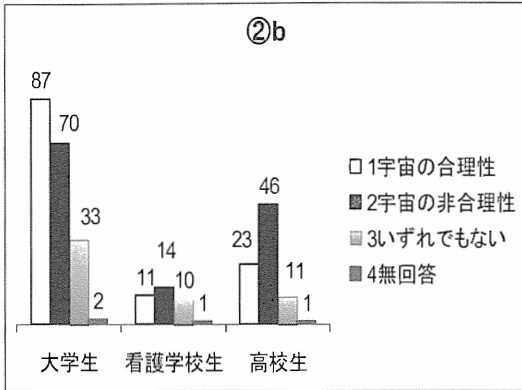
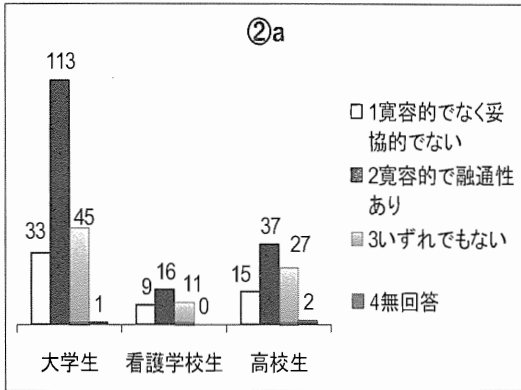
⑥ 次の a から i のそれぞれについて、1 当てはまる、2 やや当てはまる、3 どちらとも言えない、4 あまり当てはまらない、5 当てはまらない、のいずれかの番号に○をつけてください。

- a 生きる意味について自分なりの回答をもっている
1 当てはまる 2 やや当てはまる 3 どちらとも言えない
4 あまり当てはまらない 5 当てはまらない
- b 生きる希望について肯定的なものをもっている
1 当てはまる 2 やや当てはまる 3 どちらとも言えない
4 あまり当てはまらない 5 当てはまらない
- c 生活のなかで特に訳もなくあせりを覚えることがある
1 当てはまる 2 やや当てはまる 3 どちらとも言えない
4 あまり当てはまらない 5 当てはまらない
- d 生活のなかで特に訳もなく不安にかられることがある
1 当てはまる 2 やや当てはまる 3 どちらとも言えない
4 あまり当てはまらない 5 当てはまらない
- e 自分に関わる物事についておそらく上手くいくだろうと考える
1 当てはまる 2 やや当てはまる 3 どちらとも言えない
4 あまり当てはまらない 5 当てはまらない
- f 運命にまかせるよりも自身でどうにかしなければならないと考える
1 当てはまる 2 やや当てはまる 3 どちらとも言えない
4 あまり当てはまらない 5 当てはまらない
- g 自分の性格のなかで嫌いな部分を直そうとせず、そのまま放っておく
1 当てはまる 2 やや当てはまる 3 どちらとも言えない
4 あまり当てはまらない 5 当てはまらない
- h 世の中には絶対に自分とは上手くやっけていけない人がいると考える
1 当てはまる 2 やや当てはまる 3 どちらとも言えない
4 あまり当てはまらない 5 当てはまらない
- i 過去と現在とを比べるときに、現在の自分の方を肯定している
1 当てはまる 2 やや当てはまる 3 どちらとも言えない
4 あまり当てはまらない 5 当てはまらない

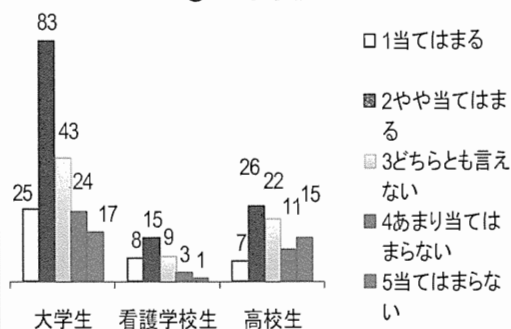
⑦ あなたが行動をするときに指針としている価値観はどのようなものですか？
自由に書いてください。

以上で質問はおわりです。ご協力ありがとうございました。

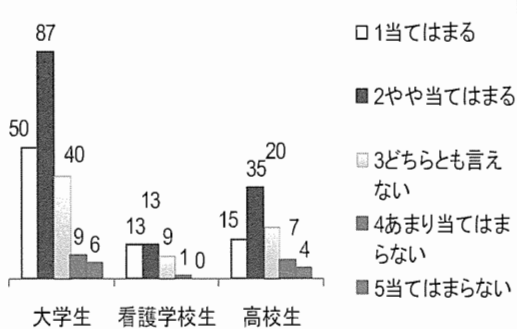
(付属資料2) 大学生、看護学校生、高校生別の調査結果



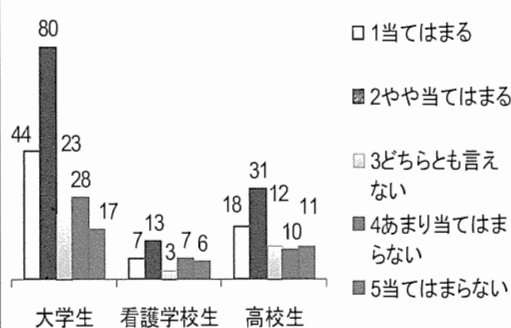
⑥a生きる意味



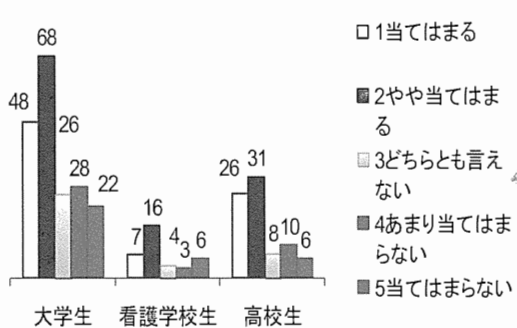
⑥b生きる希望



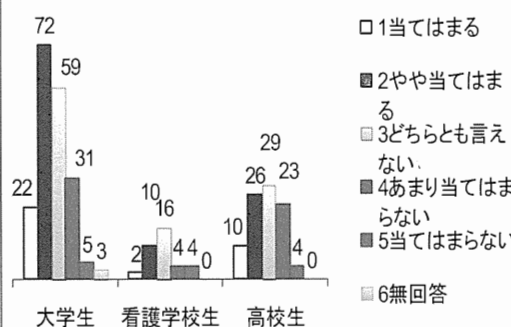
⑥c訳もないあせり



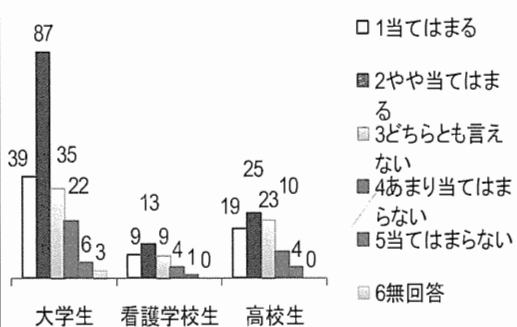
⑥d訳もない不安



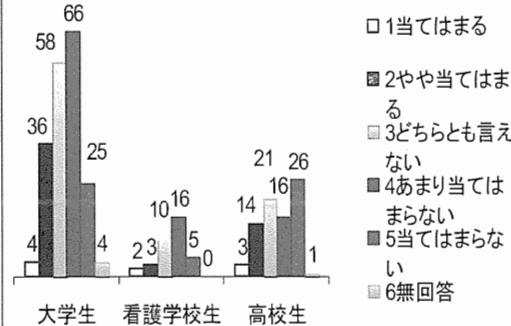
⑥eおそらく上手いく



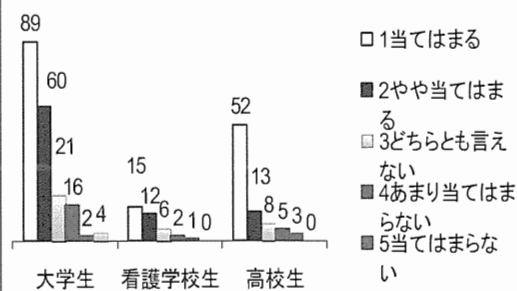
⑥f運命よりも自分でどうにかするべき



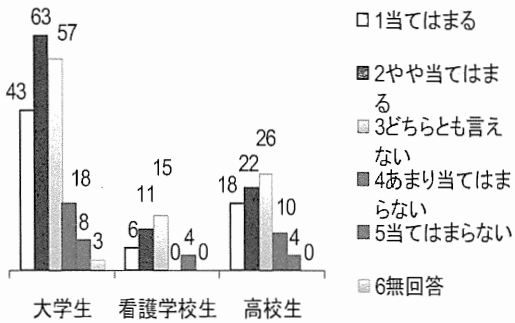
⑥g性格の嫌いな部分を放っておく



⑥h世の中には上手くやっていけない人がいる



⑥現在の自分を肯定



(付属資料3) 各設問の間の相関

	④	⑤
④	1	
⑤	0.293476	1

	② a	② b
② a	1	
② b	0.047318	1

	④	⑤	⑥ a
④	1		
⑤	0.293476	1	
⑥ a	0.194051	0.064914	1

	④	⑤	⑥ b
④	1		
⑤	0.293476	1	
⑥ b	0.208082	0.157207	1

	④	⑤	⑥ c
④	1		
⑤	0.293476	1	
⑥ c	0.007103	-0.02795	1

	④	⑤	⑥ d
④	1		
⑤	0.293476	1	
⑥ d	0.033743	-0.08849	1

	④	⑤	⑥ e
④	1		
⑤	0.293476	1	
⑥ e	0.131688	0.077014	1

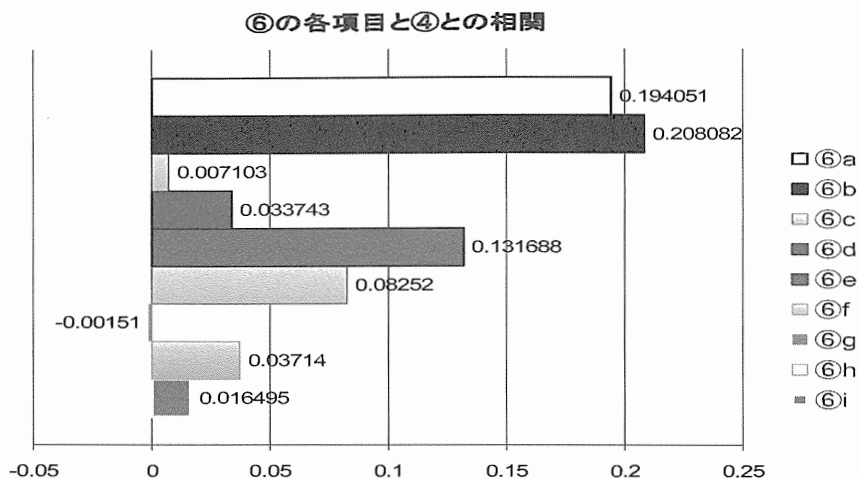
	④	⑤	⑥ f
④	1		
⑤	0.293476	1	
⑥ f	0.08252	-0.05961	1

	④	⑤	⑥ g
④	1		
⑤	0.293476	1	
⑥ g	-0.00151	0.123351	1

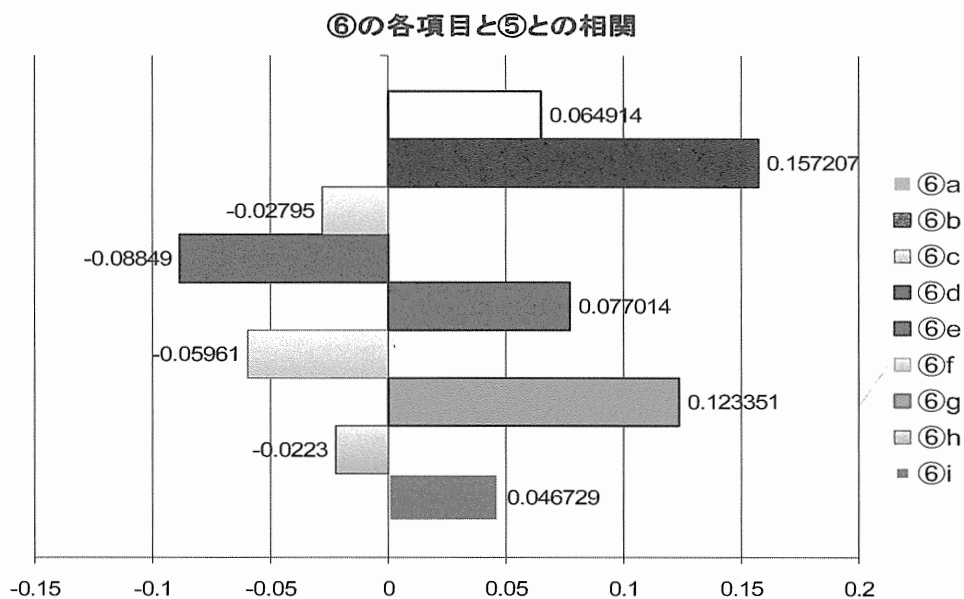
	④	⑤	⑥ h
④	1		
⑤	0.293476	1	
⑥ h	0.03714	-0.0223	1

	④	⑤	⑥ i
④	1		
⑤	0.293476	1	
⑥ i	0.016495	0.046729	1

⑥の各項目と④（「死んで身体が朽ち果てても自分を自分たらしめている心は何らかの形で存続する」という考え）との相関



⑥の各項目と⑤（人間の生命を宇宙や自然との調和という拡がりのなかでとらえるという考え）との相関



- ⑥ a 生きる意味について自分なりの回答をもっている
- ⑥ b 生きる希望について肯定的なものをもっている
- ⑥ c 生活のなかで特に訳もなくあせりを覚えることがない
- ⑥ d 生活のなかで特に訳もなく不安にかられることがない
- ⑥ e 自分に関わる物事についておそらく上手くいくだろうと考える
- ⑥ f 運命にまかせるよりも自身でどうにかしなければならないと考えない
- ⑥ g 自分の性格のなかで嫌いな部分を直そうとし、そのまま放っておかない
- ⑥ h 世の中には絶対に自分とは上手くやっていけない人がいるとは考えない
- ⑥ i 過去と現在とを比べると、現在の自分の方を肯定している